

鈴木先生、ペアレンツキャンプの皆様

だんだんと春の足音が聞こえてくる季節となつてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

この度は18ヶ月の長きにわたり、支援を頂きありがとうございました。毎日、いってきますと元気に玄関を出ていく姿はだいぶ見慣れてきたものの、これは当たり前前の光景ではなかったんだなと、思い返します。

今回、この手紙を書かせていただくにあたり、今までの家庭ノートを見返しました。初期の家庭ノートを見ると、あの激しかった行き渡りや、親子の言い合いの様子などが鮮明に思い出され、胸が苦くなる思いがしました。

息子の急激な行き渡りが始まったのは、卒園を間近に控えた年長の1月でした。些細な事がきっかけで幼稚園で泣くようになり、なかなか泣き止まないと先生から連絡がありました。最初は一過性のものだろうと、たまた

「こころ様子を見守っていましたが、次第に登園も嫌がるようになり、その登園しぶりは激しさを増していきました。毎日毎日泣いて暴れる息子を登園させるのに私も夫も疲弊していき、あまりの激しさに、皆の迷惑になるからと、ぬり幼稚園バスの乗車も拒否されるほどでした。

数ヶ月後に控えた小学校入学を前に焦り始めた私達は、知人の紹介もありすぐにペアレントキャンプさんに相談しました。ただ、この時は未就学児でもあり、引越しも控えていることからまずは書籍にてPCMを学び実践し、入学後も同様であれば、支援を本格的に行っていきたいということになりました。

PCMを手探りで始めた私達でしたが、いかにこれまでの自分達が過干渉であったかに気付かされました。新しい環境や失敗に弱いため、習い事とさせたり苦手な事を家で練習させたり、なるべく嫌な思いをしないように、失敗する事を避けさせてきました。しかし、PCMを見様見真似で実践し始めたところ息子の行動がほとんど

変わっていききました。

とはいえ、登園しぶりは全く改善せずそのまま迎えた卒園式。私達夫婦は息子が暴れて卒園式に出られない事も覚悟して幼稚園に向かいました。すると、息子が突然「今日くらい泣かばいいで一人で行く」といって、幼稚園についた途端に私達から離れて一人で教室に去了のです。この時の光景は今でも忘れられません。PCMを実践してきて、本当に良かった。これで小学校はちゃんと行ってくれるんじゃないか、私達は淡い希望を抱きました。

しかし、本当の闘いはここからでした。

迎えた小学校の入学式。会場に着くと大号泣を始めた息子。どうしても泣いて母親の私と離れられず、他の新一年生が一人で体育館に入場するほか、私は息子と並んで歩いて入場。そして、式の最中もずっと息子の隣の席に座り待機。周りの保護者の視線が痛く、つらく、本当に情けない気持ちでいっぱいでした。

そして次の日から完全なる母子登校がはじまりました。

息子ははかばかカー人で教室に入れず私は常に廊下で待機。教室で授業を受けている間はもちろん、休み時間にトイレに行くこともできませんでした。離れると息子が泣き叫ぶのです。

私がいる事で授業が受けられるのなら、と始まった母子登校でしたが、私がいても「みんなの視線がこわい」、「はんでお母さんは隣に来てくれななんだ」と大きな声でわめき、給食も食べず、ただ泣いて学校で一日を過ごす事もありました。この時が、今考えると一番どん底だったと思います。

ペアレントキャンプさんの支援もこの頃から本格的に始まりました。毎日家庭ノートを書き添削を日々して頂き、週一回電話でのカウンセリング。一回30分程度という事で、泣きながら電話することも多く、毎回時間を延長してしまっていました。

添削をして頂き、行動を見直す。すぐに結果は出ないと分かっていてもはかばか改善しない状況に私自身も余裕を

なくし、家庭ノートの添削がすぐに行われていないと不安になり、電話カウンセリングでも素直にアドバイスを受け入れられたい事もありました。そんな中でも根気強く話を聞いてくださり、寄り添い続けてくださった鈴木先生には本当に感謝しかありません。

支援を受け始めて一ヶ月後あたりから学校の玄関までついていくものの、それからは一人で学校の授業を受け帰ってこれるようになり、夏休みに入る頃には学校までついていく距離もだんだん短くなっていきました。

その後も夏休み明けは登校リズムが崩れて三歩進んで二歩下がるようなあやみではありましたが、息子も着実に成長していきました。ついには、なかなかに出口が見え、私自身も一体いつになったら「普通に」登校してくれるんだろうかと心が折れかける事もありました。そして突然に母子登校解消の日がやってきました。

一年生の冬休み明けの登校もリズムが崩れ泣きながら

登校し、正直まじか、という思いでいっぱいでした。その日に電話カウンセリングを受け、息子が帰宅後に話をしました。すると、今後一人で登校する計画を自ら話始めました。今年でも口では言うもののなかなか計画通りにいかへなかったのも、息子の気持ちを受けとめつつも、心の中ではダメだった二時の文相などを頭の中で考えていました。

しかし、翌日からの息子は計画通りに一日毎に私が学校までついていく距離を短くし、三日目には「今日は一人で行くそう」、そう言って一人で玄関から登校していきました。元気に「二だいま」、といて帰宅した時は嬉しさよりも驚きのほうが大きかったですが、息子の自信に満ちた顔を見て本当に安心しました。

その後は順調に登校し、今2年生の3学期ももうすぐ終わりを迎えるところです。途中、登校が不安定になる事も何回かありましたが、何とか自分で持ち直し、今ではあの頃が嘘だったかの様に毎日元気に登校し、今年一年生にてはる妹の登校を心配するまでになりました。

まだまだこれから先色々な事があると思います。  
もしかすると、再び母子登校になってしまうのではという  
不安は常にあります。でも、子供も成長したように私達  
親も成長しているのだと言い聞かせ、頑張っている様子を

本当にありがとうございました。

令和六年二月二十六日

